



28<sup>TH</sup>  
**JODS**  
**SPRING**  
**CONVENTION**



Guest speaker  
宮崎 真至先生

**APRIL 12TH, 2026**  
**@VISION CENTER TAMACHI**  
**10:00~17:00**

**DR 15000**  
**DT 12000**  
**DH・DA 8000**  
**RESIDENT 8000**



事前振り込み（4月3日まで）の場合上記金額より  
DR/DT-2000円 その他-1000円とさせていただきます。

Discover our top pick of topics and speakers.  
Something for everyone. Something for you.



Guest speaker  
宇毛 怜先生

# THEME 1



## HARMONY AND CONTINUITY OF THE SOFT TISSUE AROUND IMPLANT

UKE DENTAL OFFICE 宇毛玲

審美性の高いインプラント上部構造とは隣接する天然歯周囲軟組織とインプラント周囲辺縁歯肉と歯間乳頭とが連続性と調和が保持していることが重要であるが抜歯後における唇側板の吸収による歯槽骨の形態変化がその妨げとなる。よって失われた硬軟組織を回復させるためになんらかのオグジュメンテーションが必要である。これまでそれをなし得るために多くの方法やマテリアルがマーケットに登場しては儂く散って行った。手技やマテリアルを選択するにあたり何を基準にして臨床家は選択すべきか、臨床家の技量、エビデンス、メーカーの宣伝、根拠に基づかない臨床家の言及など様々な要素があげられる。

私は前歯部審美領域にインプラントを施行する際、歯槽骨の形態を診査し3つのタイプに分類する。タイプ1：歯槽骨の欠損がない、タイプ2：唇側部の歯槽骨欠損、タイプ3：唇側、隣接部の歯槽骨の欠損。これらのタイプに応じて処置を行う、タイプ1で歯牙が存在する場合は抜歯即時埋入、結合組織移植、またはソケットシールドテクニック、タイプ2において、歯牙が存在する場合はエクストルージョンを適応できるか検討する、歯牙が存在しない場合は水平的GBRとCTGを吸収性メンブレンを使用しソーセージテクニックなどを行う。タイプ3の場合、非吸収性メンブレンまたはチタンメッシュとABBMと自家骨を1:1で水平、垂直的GBRを行い3次元的に骨の造成を行う、2次オペの際にメンブレンを除去しインターポジショナルグラフトを行い軟組織の増生と付着歯肉の位置を整えて3ヶ月に粘膜貫通部を構築しプロビジョナルレストレーションで歯間乳頭と辺縁歯肉の形態を調整していく。本講演において上記の処置についての詳細を説明する。また、GBRはテクニックセンシティブな手法でメンブレンの露出などの合併症を併発することがあると報告されているが、これは外科の基礎となるフラップデザイン、減張切開縫合、縫合に起因することがほとんどであると思われる、この辺りについても動画を交えながら詳しく解説する。

# THEME 2



## 審美性に富んだコンポジットレジン修復

～ベーシック、トレンドそしてクリニカルテクニック～

日本大学歯学部保存学教室修復学講座 宮崎真至

コンポジットレジン修復システムは、臨床における時代のトレンドを見据えながら発展してきた。その背景には、各メーカーの技術力があり、これによって様々な修復システムが開発されて臨床使用に至っている。接着システムにおいては、臨床操作ステップを減少させるとともに安定した接着耐久性を獲得することが開発の方向であり、これに様々な機能性を付与することが試みられている。また、コンポジットレジンにおいては、高い機械的性質、良好な研磨性、適切な色調適合性とともにより優れた操作性などが実現されている。最近では、色素を用いずに微細構造による、分光に由来する発色現象を応用した製品も登場した。

これらコンポジットレジン修復システムの改良は、治療を受ける患者にとってはおおいなる福音ともなる。審美性ととも機能性を具備する修復処置は、まさに患者が望むものであり、それをかなえるのが術者である歯科医師である。従って、歯科医師の持っているテクニックは、修復システムが有しているポテンシャルを引き出すとともに、患者満足度を十分に満たすものであるべきである。

術者としては、使用するコンポジットレジン修復システムが有している特性を理解するとともに、さらにこれらを扱うテクニックはそのポテンシャルが高いことが求められる。とくに、保存修復処置の原則である“原形態の回復”を行うためには、何を見て何を再現するかを具現化することが大切となる。欠損があるからそれを埋める、という発想から脱却し、欠損を元の解剖学的な形態とともに色調に回復することが重要となる。すなわち、コンポジットレジンを用いた歯冠修復については、解剖学的形態の理解とともに、最終研磨がポイントとなる。

# TIME TABLE

- 10:00～10:05 代表挨拶
- 10:05～12:45 宇毛玲先生講演
- 12:45～12:50 協賛業者挨拶
- 12:50～13:30 ランチョンセミナー
- 13:35～14:15 会員発表（大城同・西田典史）
- 14:20～17:00 宮崎真至先生講演

※コンベンション終了後、講師を交えて懇親会を行います。参加希望の方は登録フォームまたはJODSメンバーにお声掛けください。  
※質疑応答のお時間も設けております。

JODS事務局係 住所：東京都墨田区江東橋1-11-7 錦糸町スマイル歯科クリニック TEL：03-5600-4182 FAX:03-5600-4186  
《振込先》 みずほ銀行 西葛西支店561 普通口座 1364131 一般社団法人JODS代表理事 芦澤仁

